

UAE自国民優遇政策の 外国人労働者への影響

齋藤 純

はじめに

アラブ首長国連邦（以下、UAE）の住民の社会的不満は、周辺アラブ諸国に比べると一見ほとんど存在しないかのようにみえる。石油収入に支えられた豊かな財政収入を人口の約一割に過ぎない自国民に分配し、彼らの経済的不満を抑え込んでいる。建国直後と比べると国民も近代化と石油収入の恩恵を広く享受してきたため、ますます支配体制に対する挑戦が起こりにくい状態となっている。二〇一一年に中東全域で起きた政治・社会変動の波及に対しても、UAE政府は経済的分配の強化によって、自国民の政府に対する批判的な意見をかわすことに成功し

た（参考文献①）。

いうまでもなく、あらゆる産業部門でUAE経済を実質的に回転せしめているのは、九割を占める外国人労働者たちである。近年のUAE政府による自国民に対する手厚い分配政策は、外国人労働者の労働環境や生活に負担を強いているのではないか。

本現地情勢報告では、外国人労働者の現状と経済的不満について統計データや現地報道をもとに論じる。

UAEの労働市場

IMFの「World Economic Outlook Database, April 2014」によれば、湾岸諸国の失業率は中東諸

国のなかでは低い。二〇一四年の失業率推計値は、バハレーンが四〇%、クウェートは二・一%である。アブダビの経済開発庁の二〇一四年一月の発表で、二〇一二年のアブダビの失業率は二〇一一年の二・八%から増加し三・二%と報告した⁽¹⁾。湾岸諸国の政府統計について不備や信頼性の問題はあ

開発庁のより詳細な月額所得統計で自国民と外国人（特に集合住宅に居住する世帯）との間の差が明らかになっている。二〇〇七年の平均月額所得では、自国民世帯が一万二七〇八米ドルに対し、非自国民世帯が四〇一一米ドル、集合的非自国民世帯が二一一二米ドルであった（表2）。外国人労働者でも、高給で働くグループといわゆる低賃金労働者のグループが存在し、その給与格差も極めて大き

表1 UAEの国籍別月額賃金水準の比較（2009年、米ドル）

	雇用主および自営業		被雇用従業員	
	中央値	平均値	中央値	平均値
自国民	6,825	17,399	4,860	5,551
外国人	4,050	5,972	675	1,570

（出所）National Bureau of Statistics, Labour Force Survey 2009 より筆者作成。

い（月額平均値で約一九〇〇米ドルの差）。

こうした自国民と外国人労働者間の給与格差は、彼らが従事する産業や職種の違いにも大きく左右される。アブダビ統計センター（Abu Dhabi Statistics Centre）の二〇一二年の産業別雇用者所得統計によれば、マクロの雇用者所

表2 アブダビ首長国における国籍・世帯別月額所得（2008年、米ドル）

	世帯の種類			合計
	自国民世帯	非自国民世帯	集合的世帯	
平均	12,708	4,011	2,112	5,444
下位 25%	5,873	1,620	783	1,436
中央値	9,450	2,925	1,350	3,132
上位 75%	15,271	5,018	2,625	6,413
最大値	128,178	103,410	34,146	128,178
最小値	662	135	243	135

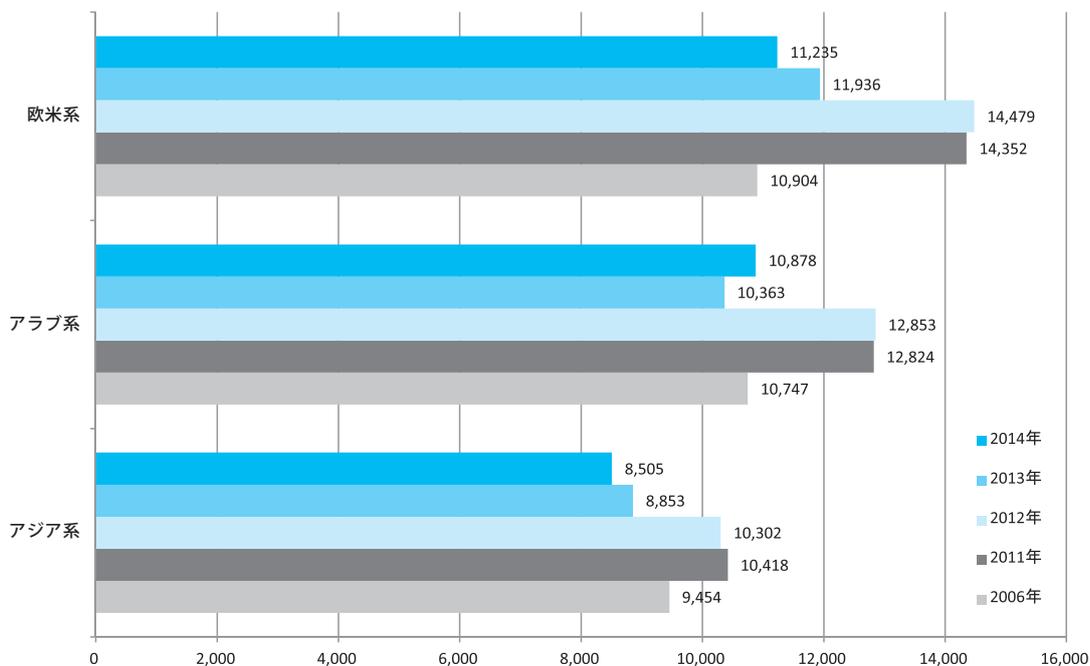
（出所） Department of Economic Development "Survey on income and expenditure of household 2007/2008" より筆者作成。

得総額四四三億米ドルのうち、行政部門は九四億米ドルで総額の二一・二%を占め、最大の雇用者所得の配分先であった。また、同センターの二〇〇九年の雇用統計（Employment and Wages Survey 2009）によると、自国民労働者の三二・六%が専門職、二一・九%が技術職・準専門職、二〇・八%が事務職に従事している⁽³⁾。それに対して非自国民労働者の三五・八%は手工業と関連交易労働者、一一・八%が工場・機械オペレーターとして働いており⁽⁴⁾、自国民と非自国民の間に存在する職種の違いが、給与の格差に影響していることもうかがうことができる。

●外国人労働者の給与の減少

自国民の経済的不満を和らげるためのコスト増加は、結果として外国人労働者の労働環境（賃金・待遇を含めた）の悪化につながる。民間企業に対して自国民の雇用を保証させることは、民間企業の収益を圧迫するために、民間企業は自らの経営改善のために外国人給与などを短期的に削減しやすいコストをカットする傾向がある。実際に、Gulf Business 誌による外国人給与調査等でも二〇一二年以降

図1 UAEの国籍別外国人月額給与の推移（米ドル）



（出所） Gulf Business, Salary Survey 2006, 2012, 2014 より筆者作成。

月額給与が低下傾向にある。一般的に、UAEの外国人労働者のなかで欧米系の月額給与が最も高く、アラブ系、アジア系の順で低くなる傾向がある（図1）。湾岸諸国全体でもいえることで

あるが、UAEにおける外国人給与は二〇一二年以降低下傾向にあった。給与の低下傾向は、特にアジア系と欧米系労働者で顕著であったが、アラブ系については二〇一三年から二〇一四年にかけて回復傾向がみられた。これについては最も高給であった欧米系外国人の給与を削減したり、彼らを解雇し、低コストのアラブ系やアジア系外国人に置き換えたりしたとの指摘がされている。

また、UAE企業の外国人雇用の優先順位は、企業の業績が良い時と悪い時で変化することもある。企業の業績が好調で人件費に余裕があるときは、高給の欧米系外国人を優先的に雇用する。しかし、いったん業績が悪化した時には、自国民の雇用を維持したまま人件費を削減するために、アラブ系やアジア系に切り替えることが予想される。

●おわりに

本報告では、限られたデータや現地報道からUAE労働市場における自国民と外国人労働者の雇用状況と賃金状況について整理し、また近年自国民労働者の雇用を維持する一方で外国人労働者の給与が

削減されつつあることを示した。

UAE企業において二〇一二年以降外国人労働者の賃金削減などの措置が取られてきたが、これが企業業績にどのような影響を及ぼすかどうかについては将来の分析課題である。また、労働環境が厳しくなった外国人労働者（特に低賃金労働者層）の生活環境や金融環境（消費者金融へのアクセスなど）がどのように変化しているかについても分析を要する。たとえば、UAE国内にも通常の銀行制度にアクセスできない低所得者層を主なターゲットとした在来金融が存在する。一説にはこれらの顧客に対し年利一二〇%の法外な高利で貸し付けを行っているとされる。未組織な金貸業者は担保として顧客のパスポートなどを課し、単なる金融問題から社会問題へ悪化させている（参考文献②）。

UAEにおいて外国人労働者の生活環境が悪化することは民間部門の活力の低下を招き、社会不安の醸成にもつながる。外国人労働者を取り巻く労働市場・消費市場・銀行市場についての詳細な調査は、重要であり緊急を要すると考える。

（さいとう じゅん／アジア経済研究所 在アラブ海外派遣員）

《注》

(1) この発表数値については疑いももたれている。一説には、アラブダビド自国民の失業率は一八%に達するとの説がある。

(2) オンラインリクルート会社 GulfTalent.com はUAEの大学との共同で調査研究を行い、自国民の男子卒業生の八六%と女子卒業生の六六%が、卒業後政府部門のなかで働くことを望むことを報告した。多国籍企業希望は男性四%と女性一〇%を占め、UAE民間部門企業は最後の選択肢であった（二〇一三年三月一二日付、Khareej Times）。

(3) 自国民労働者のなかでも男性と女性との間で職種の違いは存在する。自国民男性労働者の二六・八%は技術職・準専門職、二一・五%は専門職に就き、自国民女性労働者の四五・九%が専門職、二五・四%が事務職、一六・一%が技術職・準専門職に従事する。

(4) 非自国民労働者のうち男性労働者の三八・九%が手工業と関連交易労働者、一三・九%が単純

労働者、一二・七%が工場・機械オペレーターに従事する。女性労働者については、三一・九%が専門職、事務職が二一・八%である。

《参考文献》

① 堀坂功二「二〇一二年」UAEにおける政治改革運動と体制の危機認識―二〇一一年の建白書事件を事例に―機動研究成果報告『アラブの春とアラビア半島の将来』アジア経済研究所。

② The National, 2014. Pawnshops answer to UAE's loan sharks. The National, 29, 2014. <http://www.thenational.ae/the-national/conversation/editorial/pawnshops-answer-to-uaes-loan-sharks>.